



「こんにちは 市長です」

4月10日号

3月議会が終わってすぐ新年度予算のあらまし地区懇談会、生品行政センターが12会場目（最後）であった。おおよそ1時間半というところだが、この機に貴重な意見が頂ける。有意義なことといつも思う。部長の説明の後、私が30分くらいはしゃべる。時折「言い過ぎ、ヤバイ」と思うことがあるが寛容な人ばかりなので大事には至ってないのもありがたい。これで新年度を迎えられる。

「生活道路がガタガタ、停止線や横断歩道、そしてセンターラインすら消えそう。危ない」。私も運転していてそう思っていたから、的を射た発言、強く印象に残ったご意見と受け止めた。「陳情案件」はやってもやっても累積していく。怠けているわけではない。限られた予算の中、毎年15億円くらいは付けているのだけど追い付かないのだ。議会からも「陳情はどうした」と言われ、担当は窒息状態にいる。思い切って、この1・2年は「道路改修」に重点を置く政策に転換するのもありかなと思うが、どうだろうか。

もう一つ、「限界集落になっちゃう」とのことだ。土地の用途として市街化区域と市街化調整区域（白地と青地がある）がある。条例で白地には辛うじて家が建てられるようにした。土地改良した地域に家が建てられないのは当然であるが、集落内の農地に家が建てられないのは疑問を持つ。法律ではダメというが、このままだと市街化調整区域の集落には高齢者だけが増え、若い人たちや子どもたちが消えていく。国の政策とはいえ、これでは元気な地方都市に限界集落をつくっていくことになりはしないか。コミュニティーは子どもたち、若いご夫婦そして高齢者でつくられなければならない。活発な産業が人を集めてくる。その人たちが既存の集落の中に家を建て、住み、新たな血を注ぎ込んでいく。機会をつくり、国・県に訴えていきたいと思う。